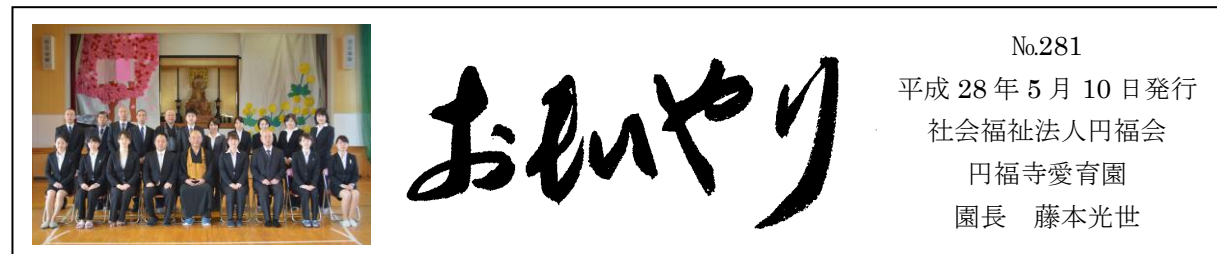


平成 28 年度が始まりました。4 名の新任職員を迎えてのスタートです。



円福杯球技大会

園長 藤本光世

円福寺愛育園は、子どもたちに「夢」を持たせ、「夢」は絶対にかなうと励まして、日課（普段の生活）や行事に取り組ませています。次第に私たちの言葉が子どもの心に入るようになって、子どもたちは変わってきました。確かな実感としてそれは表れています。

1 学期の最も大きな行事は、長野県児童福祉施設連盟主催の球技大会でした。円福寺愛育園では 4 月にチームを発足します。幼児さんを抜かした子どもたち全員が選手です。小学生以上の男子は野球チーム、中高女子と、小学生女子はそれぞれ分かれて卓球チームに入ります。私からそれぞれの監督とコーチを発表し、児童の挙手でキャプテンが決まります。小学校責任者も決まります。こうして練習がスタートします。

練習は、技術の向上を目指しますが、それと共に普段の生活に生きるようにします。つまり、あいさつができて、朝は自分で早く起きて、お参りには大きな声を出して参加して、お話は必ず先生の目を見て聞く。小学 1 年生も自分から進んでできるように話します。ですから、練習は道具を大切に、あいさつをする、整理整頓する、先生の目を見て話を聞く、大きな声を出す、など、練習を通して心を育てることを心がけています。

今、児童養護施設は大きな転機にあります。子どもたちは家庭的養護推進の小さな集団に分断されて、集団の力を生かして養育することが難しくなっています。定員も小さくなっています。球技大会もその波に押されて、一生懸命練習して参加する施設は少なくなっていました。参加施設数も激減しています。子どもたちに意義を理解させて取り組ませることができなくなったのでしょうか。

愛育園の養育の理念（ミッション）は子どもを立派にして自立させることです。それには、目の前のどんなことにも全力で取り組む心が必要です。球技大会はその心を育てる大きな行事でした。でも、その心は長野県児童福祉施設連盟に加盟している施設とは、異なることを感じていました。そのほかの様々な理由もあって、この 3 月で連盟を脱退しました。

さあ、7 月の球技大会が無くなってしまいます。どうしたら良いでしょう。副園長と相談して、それなら円福寺愛育園が中心になって球技大会を作れば良い、となりました。今、施設は地域との交流が求められています。施設が地域に出ていかなければなりません。この大会は、地域の皆様に当園の児童を知ってもらい良い機会になるとともに、きっと当園の子どもたちの姿が地域の子ども

たちに良い刺激を与えるでしょう。そう考えて、円福杯球技大会を創設しました。以下、その趣意書です。

円福杯球技大会趣意書（案）

児童養護施設円福寺愛育園は、初代園長藤本幸邦が戦後上野駅にたむろする戦災孤児を憐れんで、円福寺に連れてきて養育したことから始まりました。戦後 70 年を経て、円福寺愛育園に入所する児童の背景は、社会の変動により大きく変化しました。しかし、世のため人のために尽くせる人間を育てたいという、創立以来の願いは変わりません。世のため人のために尽くせる立派な人間に育て、卒園するときに自立させることが、円福寺愛育園の使命です。

この使命の実現のために、円福寺愛育園は児童に夢を持たせ、日課と行事に一生懸命取り組ませてきました。なんでも精一杯やろう。一生懸命やろう。その時点で最高のものを創り出そう。これが円福寺愛育園の合言葉です。

昨年まで毎年 7 月末に、長野県児童福祉施設連盟主催の施設対抗球技大会がありました。愛育園は 4 月にチームを結成し、監督・コーチ・主将・責任者等を決めて、7 月まで一生懸命練習しました。練習は、普段の生活を向上につなげよう。時間を守り、あいさつを交わして、道具を大切に扱い、準備や後片付けが進んでできる人間にしよう。日課に進んで取り組み、おまいりでは大きな声を出し、生活の質を高めることに向かわせよう。そう声を掛け合って頑張ってきました。その結果、地区大会や県大会では、どの施設より礼儀正しく、マナー良く、しかも上位の成績を収めてきました。

児童養護施設は、今、大きな転機に差し掛かっています。施設の養育の哲学や使命の共有、そして職員の養育力が問われています。当園は様々な事情から、この三月に長野県児童福祉施設連盟を脱退しました。それで、これまで児童の養育に大きな役割を果たしてきた球技大会が無くなってしまいました。

それに代わるものをなんとしても創りたい。その願いを込めて、「円福杯球技大会」を創設いたします。

円福杯球技大会の願いは次の通りです。

1. 円福寺愛育園の児童が、地域の児童と交流し、円福寺愛育園の児童の良いところ、地域の児童の良いところをお互いに学び合う機会とする。
2. 勝敗よりも、礼儀・あいさつ・マナー・道具の管理（準備、整理整頓、後片付け）などの試合における選手の心を重視し、参加児童の普段の生活の向上に資する大会とする。
3. 円福寺愛育園の児童と交流することにより、地域の児童も円福寺愛育園の児童もより立派になる大会とする。

皆様におかれましてはこの趣意にご賛同くださり、大会への参加とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第 1 回 円福杯球技大会

副園長 青谷 幸治

愛育園の児童が施設の中だけでなく、社会の中で生き抜き勝負できるものということで今年、第一回円福杯野球卓球大会を開催します。そして野球の監督にも任命され、この大行事を成功させるために準備しています。

野球チームの目標は当然ですが優勝することです。そのために①挨拶②道具を大切にする③仲間を助け合うの 3 つのことを大事にしながら練習します。野球が上手ければ何でも好き勝手やっていいのではなく、野球が上手い、好き以上に人としての人間力を高め、一般家庭の児童に負けない人格を形成できるそんな練習ができればと考えています。

愛育園の児童が自信をもち、やり遂げたと思える達成感を味わい経験することで、日常生活に戻っても目標を持ち、目の前のことを何でも一生懸命できる子であってほしい。この円福杯が子どもたちの生活に生きるようなものになることを期待して野球、卓球の 3 チームそれぞれが努力し結果を出し児童と職員が喜びを共有できることを願っています。

平成 28 年度 副園長方針

副園長 青谷 幸治

春休みのある晴れた日に子どもたちとサイクリングに行った時のことです。先頭で走っていた私の後ろを走っていた高校生 2 人の会話を聞いていました。A 君「春っていいよね」B 君「そうだよね。何か気持ちいいよね」A 君「梅と桜の違いってなんだろう？」B 君「色じゃない？桜はまだ咲いてないけど、梅はもう咲いていると思うよ」とたわいもない会話でした。

すると今度は女の子が「春のうら～ら～の隅田川」と音程をはずしているにも関わらず恥じらいもなく自然と歌っていました。お昼は、皆で芝の上に輪になって座りお弁当を食べました。「こんな暖かい日に外でお弁当が食べられて幸せ」「皆で食べるっておいしいね」と子どもたちの会話でした。こんなどこでもある光景や会話ではありますが、愛育園の子どもたちを今まで関わってきた私にとっては、この日の子どもたちの様子を見ただけでも子どもたちの感受性が育ち、劇的に心が変わったことがわかりました。私自身、本当に 4 年間の成果を実感することができました。自然と会話を通して心が表れているのです。年月が経ったから成長するわけではありません。子ども一人一人の本気で生きる（目標や夢に向かって取り組む）こととそれを支える職員のチームワークによって成り立つと思います。私は今年で副園長 5 年目になります。一つの区切りの年でもあります。新たなチャレンジをしていく年でもあると考えています。愛育園の子どもたちの心が変わり始めたことをチャンスと捉え、子どもたちの自立につながる養育を平成 28 年度も先生方とともに力をいれていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

いよいよ円福寺愛育園という新たな養育の学び舎へ出発です。

◆ 行事のあり方再検討

副園長を中心に年間の行事を計画・立案し、担当職員を決め目的を考えさせ計画表や事業計画表の作成まで作れるように指導していく。また行事が生活に生かせるためにはどうすればいい

のか再確認する。児童・職員ともに難しいことや準備が忙しくなるような行事を作り上げる

◆ 進路指導・学習指導

自分の夢を隠さず堂々と言えるようになってきたのは、安心した生活の中からいろんなことを経験し自信がついてきたからです。今後、この夢を現実にしていくための長期・中期・短期目標の設定や毎日の生活の送り方、目標に向き合う姿勢、心の成長などのプロセスを確立していく。また進路や学習に必要な書籍を充実させ、より将来のイメージとやる気につながる環境を作る

◆ アフターケアの充実

アフターケアの意味合いとしては、卒園生が社会人になる過程でのフォローを在園生が知ること、より将来のことを安心して（アフターケアの存在）考えることができ、普段の落ち着いた生活につながる（詳細は今後、検討）

◆ 職員育成

主任保育士、副ホーム長、調理主任との関係を強固にしていく。

各ホーム職員と会話を増やし、愛育園の精神や方針を理解してもらえるようにする

シンプルな言い方で相手が理解してもらえるよう努力する

主任保育士方針

主任保育士 石崎早織

今年度も引き続き、主任保育士をやらせていただくことになりました。私が主任保育士になり 5 年目になりますが、5 年前を思い出してみると、愛育園の養育環境も変わり、自分を大切に、自分の為に頑張れる子ども達がとても増えてきました。そういった子どもの姿や気持ちが今後も継続できるよう、そして子どもの成長に繋がる養育ができるよう、1 年間一生懸命務めてまいりたいと思います。

◇目標

・なんでも一生懸命頑張れるよう子どもを増やす。

⇒この言葉はいつも園長先生や、青谷副園長が子ども達へ常に言い続けている言葉です。なんでも一生懸命頑張れば必ず自分の力になること、また周りのたくさんの方々が支えてくれるようになること、頑張ることで自分のプラスになること等、私もこの言葉を聞いてから、いろんな場面で子ども達へ言い続けてきました。子どもにはこの言葉が少しずつ定着してきているのは、生活を見ていて感じるのですが、ホーム職員を見たときにどこまで理解できているのかと思う時もあります。そのため、まず職員がこの言葉の意味をしっかりと頭にいれ、子どもと関わるのが大切だと思います。子どもたちの気持ちはまだまだ弱いです。大人でもそうですが、楽な道があればそちらに進みたくくなります。でも目の前に頑張れる環境があって、支えてくれる人、応援してくれる人がいれば、子どもは必ず成長します。子どもはみんな今の自分から変わりたいと思っています。その変わるきっかけを作ってあげるのは私たちの役目でもあると思っていますので、昨年以上

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

に子ども達が自分の為に頑張れるよう、職員の心を一つにしていきたいと思います。

・職員の育成

⇒育成といってもまだまだ私自身も力不足ではありますが、毎年の課題になっているのは職員問題です。子どものレベルが上がっている分、職員のレベルも一緒に上がっていかないとはいけませんが、そこが毎年改善されていません。今年度はまごころ・そよかぜホームに4名の新しい先生方をお迎えしました。きっと不安等たくさんあると思いますが、その不安や子どもと関わるうえでの疑問点、業務等、細かい部分にも目を配り、そして、愛育園がどんな養育方針で子ども達を養育しているのか、一人ひとりの役割はどんなことがあるのかなど、一緒に考えていけたらと思っています。また私自身も今後も成長できるよう常に園長先生や青谷副園長の養育方針を頭に入れ、そして報連相を欠かさず、仕事に当たっていききたいと思います。

今年度もよろしくお願いします。

新年度方針

庶務 古川 春美

三ヶ月の引き継ぎ期間を終え、一日にこれだけはやらなければいけない事などの流れは掴めたように思います。その繰り返しの中で、経理と庶務をうまく融合して仕事が滞ることがない様にして行きたいと思います。

そこでこれからの業務に当たり、以下の事に気をつけて行きたいと思います。

① 措置費（事務費収益・事業費収益）の請求等

園の子ども達と職員が活動する為の大切な費用となりますので、今までの資料を参考にしながら請求を出せるようにします。

② 小口現金の管理の徹底

先生方が立て替えて下さっている場合がとて多いので、早めに先生方に返金できるようにします。

③ 諸口支払い

請求書に基づいて支払いの漏れ、金額の間違い等ないようにします。

④ お給料計算

特に保険料の変更等に気をつけて計算し、間違いのない様にしていきます。

⑤ 児童棟・管理棟の設備の不備があった時は、早めに業者と連絡をとるようにします。

⑥ 学校への各種提出物等

学校からの各種書類には早めに目を通し、早めに対処できるようにします。

先生方には、余裕を持ってこちらに提出して頂けるよう促す。

⑦ 電話対応は十分に気をつける（特に児童の親族等）

様々な内様の電話がありますので、わからなかった場合は自己対応せずに相談するようにします。

（平成28年5月10日発行 月刊「円福」478号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可）

※ この一年を通して、行事・業務等の把握をしっかりとやり、次年度の業務が円滑に進められるようまとめて行きたいと思います。

調理方針

調理主任 伊藤 慈子

新年度がスタートし、はやくも1ヶ月が経ちました。調理室は、今年度5名で活動していきます。

平成27年度は4月より新人の先生2名を迎え、また、新人の先生以外の2名も入社した時期が違い、1年を経過していないので、4名が新人でした。そして、そのうち1名は男性です。ですから、新年度が始まる前は、不安な面がありましたが、今日まで一年間5名が一生懸命がんばってきて、その不安は徐々に消え、希望に変わり始めています。この5名でなら、今年度、子どもたちのために、安全でおいしい食事を決まった時間に提供できると思います。それを実現するために、改めて、お互いに声を掛け合い、協力し、助け合い、思いやり、良い仕事ができるように、みんなで努力し、よいチームワークを作って行きたいと思います。

中高生女子卓球

中高生女子卓球監督 石崎早織

今年度も引き続き監督をやらせて頂くことになりました。去年はチームの心も一つとなり、3ヶ月間とても充実した時間を子どもと過ごすことが出来ました。そして3カ月を通して子どもとの絆も強くなり、私自身とても良い経験をさせていただきました。まだ卓球練習が始まっていない中でも、早く練習をしたい、今年こそは優勝したい、という子どもの声をたくさん聞き、子どものやる気をとて感じます。ですので、今年は昨年以上によいチームが創れるのではないかと今から楽しみでなりません。先日球技大会の発足式が行われました。そのあと各チームに分かれミーティングを開きました。中高卓球チームは一人ずつ球技大会に向けての決意を発表してもらいました。子ども達の発表を聞いてすぐ立派だなーと感じたものがありました。それは「まず日課をしっかりとやる事」でした。昨年から私が子ども達に言い続けてきた事がしっかり子ども達に伝わっていたこと、そして子ども達自身でも日課の大切さを感じられるようになってきていることが、とても嬉しく感じました。これから卓球の練習も本格的に始まってきます。子どもと一緒に汗を流し、卓球だけではなく、自分のやるべきことを一生懸命にやり、3カ月後の大会ではよい結果が残せるよう頑張って来たいと思います。

小学生卓球監督方針

保育士 上原美恵子

今年度も昨年度に引き続き小学生卓球監督をやらせて頂くことになりました。先月の発足式の折、全体会の後に小学生チームで集まり練習を始めるにあたっての注意点や、一人一人の目標について話し合いを行いました。練習中の約束事については、拗ねたり、ふざけたりしないとか、周りの人が嫌だなと思うことは言わない等子供達から意見が出ましたので頑張っていこうねと声を掛けています。次に個々の目標について発表してもらいました。今年キャプテンを任された6年生のHさんは落ち着いた様子で、皆に声がけしながらチームをまとめて行きたいと発表してくれました。副

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

キャプテンは4年生のSさんをお願いしましたが、キャプテンを助けて皆で一生懸命に練習をしたと言ってくれたので頼もしさを感じました。又他児からは練習時間に遅れないとか、卓球が上手になりたい、あいさつをしっかりやる等それぞれが自分なりに考えて発表してくれていました。

実際に練習を始めていますが、球上げ一つとっても去年よりそれぞれが格段に回数を伸ばしていきっており、改めて子供の成長の素晴らしさを感じています。又練習を楽しむにしているようですし、少しでも上手になりたいと言う思いが伝わってきますので私も子供達の期待に答えられる様に努力していきたいと思います。

新入学生の抱負

小学校に入学して

入学式はとても人が多くてすごい緊張しました。校長先生の「アヒルの話」は僕もやろうと思いました。(ア・・挨拶をする ヒ・・1人でやる ル・・ルールを守る)

入学して一ヶ月が経って、学校は楽しいし数字や平仮名のお勉強も楽しいです。登下校も少し遠いけど毎日楽しく通ってます。

頑張りたいことは、お勉強とマラソンです。マラソンやかけっこでクラスの中で一等賞になれるように頑張ります。

小学校に入学して

4月6日に通明小学校にて入学式が行われました。S・Y



くんはピカピカのランドセルを背負い、緊張しながら学校へ向いました。

入学式では緊張しながらもハキハキと入場し、クラスで名前を呼ばれると元気な返事をしていました。

S・Yくんの今年の目標

小一 F・K



(平成28年5月10日発行 月刊「円福」478号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

【おともだちをたくさんつくりたいです。いっぱいべんきょうしたいです。】

初めのうちは慣れない登下校に、帰ってくるなり「つかれた～」とぐったりしていましたが、1週間経つ頃には元気よく「ただいまー！」と帰ってくる様になりました。

夢いっぱいの学校生活。毎日元気に登校しています。

中学に入学して

中学校に入学して私は頑張りたい事が2つあります。

1つ目は何でも積極的に行動し、途中で投げ出したりせずに最後まで取組むと言うことです。理由は今までに何かを始めても途中であきらめてしまって、最後まで出来なかったことがあって後悔しているからです。

2つ目は部活動をしっかりやることです。私は小学校では合唱団に入っていました、中学では吹奏楽部に入りたいと思っています。3年間頑張っ続けて行きたいと思っています。

私は中学生になって不安に思っていることもありますが、この2つの目標を達成できるように頑張りたいと思います。

中学校に入学して

中1 I・Y

今年の目標は、一年間、クラスで勉強を頑張るという事です。特に、数学と英語と音楽を頑張りたいです。

数学は、わからない事があった時に、積極的に質問していきたいです。英語では初めての教科なので、みんなと同じように勉強したいです。音楽では大きな声で歌を歌いたいです。

他にも、野球や柔道を頑張りたいです。一年前は本気で取り組めなかったのが、今年は本気でできるように努力していきたいです。

高校に入学して

高1 H・A

僕は、今年の春から長野工業高校システム環境科に入学しました。生徒会ではボランティア委員になり、班活動は硬式野球班に入班しました。

僕は、中学の時、バスケ部を途中で退部してしまった事もあり、高校から野球をやる不



安の不安でしたが、今、野球班では友達もでき、厳しい練習にもついていく事ができています。

また、僕は、卒業後は進学を希望しているので、班活動だけでなく、勉強も今までにないくらい頑張っています。色んな資格も取りたいと思っています。

中学校ではできなかった事を、高校の3年間ではやっていけるように頑張りたいです。

高校に入学して

私は一年間篠ノ井高校に入る為に勉強をしました。そして4月に無事入学する事ができ、とても嬉しいです。篠ノ井高校での3年間を無駄にしない為に私は二つの目標を作りました。1つ目は学習と部活の両立です。篠ノ井高校は部活動が盛んに行われています。私の所属している美術部は週6回のペースで活動しています。油絵やアクリル絵の具などを使い、作品を創り展覧会やコンクールなどに展覧したりしています。自分の意志で入った部活なので、勉強との両立を図り、充実した高校生活にしたいです。二つ目は時間を大切にすることです。高校に入り課題が増え、部活を始めたことで、今までよりも時間を大切にしないといけないと思うようになりました。メリハリのあつ活動心を心がけるようにしたいです。この目標を忘れず、1日1日を大事に毎日頑張りたいと思います。

(高校1年S・Y)

あおぞらホームだより 5月

保育士 石黒玄章

新年度に入り、一か月が過ぎました。今年度のあおぞらホームは小学生が7名、中学生が4名、高校生が4名、社会人が1名の総勢16名でスタートしました。

小学一年生の男の子は2名います。毎朝起床してから自分で布団をたたみ、顔を洗ってお参りに参加します。そしてお兄さん、お姉さんと共に登校する姿は、日に日に足取りも軽くなっているのが解ります。中学生に進学した子は、小学生から始めた柔道を引き続き行い、黒帯を目指しています。高校に進学した子は、同じ高校の3年生の先輩を追って野球部に入部しました。早朝から夜遅くまで大変な練習の中、甲子園目指してやる気と希望に満ち溢れた姿は、正に青春そのものです。他にも現在、野球や陸上、スイミング、体操など各々の夢に向かって積極的に活動する姿は、自立への足掛かりとなり、本人の自信に繋がっていく事と思います。又、学習も以前に比べ、格段と積極的に取り組む姿勢が見受けられます。小学生は下校してから。中高生は7時半から各々が自発的に談話室に集まって学習しています。



球技大会の練習も始まり、これから行事も目白押しです。今年度も多くの喜びと感動を子供たちと共有していきたいです。

まごころ・そよかぜ ホームだより 5月

保育士 竹内早季

満開だった桜もあっという間に葉桜に変わり、4月も半分過ぎました。4月は「出会い」の時期、今年度からまごころ・そよかぜホームに新任職員が4名配属されました。新任職員紹介の時に、子ども達からわあっと歓声が上がり、暖かく迎えていただけて、これから頑張ろうと心から思いました。新任一同子ども達のために精一杯務めてまいりますのでご指導のほどよろしく願いいたします。

また、子どもたちにも「出会い」がたくさんありました。まず、幼児さん2人が幼稚園に入園しました。幼稚園の制服を着た2人ははにかみながら「行ってきます！」と大きな声で園を出発していきます。初めての幼稚園の教室、初めて出会う幼稚園のお友達、初めてだらけで緊張しながら毎日頑張つて通っています。少しずつでもお友達と仲良く遊べるようになっていけたら・・・と思い、見守っていこうと思います。また、今年度から新たに高校生になった児童も制服に身を包み、登校初日は「似合う！かわいい！」と園のみんなに声をかけられながら登校していました。やりたい部活も見つけ、充実した日々を送っています。さらに、クラス替えや進級で環境や学年が変わった子ども達も新しい教材を手し、「これからこんなことが始まるんだよ」と期待に満ちた表情を見せてくれました。子ども達一人一人の新年度における思いは、勉強を頑張りたい、人に優しくしたい、大きな声でお参りを頑張りたい・・・内容は様々ですが、どれも子どもたち自身が大切にしたいと思っていることです。

ホーム職員で子ども達の頑張りたいという気持ちを応援していきたいです。

さらに、先日、球技大会の発足式がありました。約3ヵ月後の大会に向けて、まごころ・そよかぜホームの子ども達は小学生、中・高生の2チームに分かれ、卓球に励んでいます。

早速練習も始まり、いよいよこれからです。学校に、日々の日課に、練習に・・・忙しくなりますが、



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

諦めない心を大切に頑張っていきましょう。

調理室だより

栄養士兼調理員 原 未華

春になって暖くなり、晴れる日が多くなってきました。このまま天気の良い日が続けばいいなと常に思っています。

入学・進学をして新たな環境の中で毎日、学校や部活動を頑張っている子どもたちの姿を見ているパワーをもらっています。

「おいしかった。ありがとう。」と笑顔で子どもたちが言うので私たち調理全員にとって本当にうれしいことです。

努力を惜しまず、何事にも一生懸命取り組んでいる子どもたちのために多くの料理を知ってもらい、心身ともに満たされておいしさかつ栄養満点の食事を調理全員で作っていきたいと思います。

愛育園でしか味わえない、愛育園ならではの食事を提供していきたいです。

愛育園の職員になって

庶務 古川 春美

愛育園にお世話になり早いもので四ヶ月が過ぎようとしています。

傳田先生に教えていただきながらの三ヶ月はとても中身が濃く、私に出来るだろうか？という不安ばかりでした。

正直、慣れない緊張感でどうしよう？と思った時もありましたが、今はもう楽しくて仕方が無い！！

それもこんな私を受け入れて下さっている皆さんのおかげです。

また、私は以前から少しでも子供と関われる場所で働きたいと思っていましたので、それが叶って本当に充実の毎日です。

しかも初日からかわいい子ども達に『古川先生』なんて呼ばれ、歯痒いの何の…

また、先日新任職員歓迎会の席で、名前入りのスリッパを頂きました。

思ってもいなかったプレゼントに本当に感激しました。

愛育園の一員になった喜びと、逆にしっかりやらなければという責任感があふれました。

間接的に子ども達と接している私に比べ、毎日直接子ども達に接している先生方には、いつも脱帽です。

どんな形でもいいので、いつも先生方のサポートができるよう心がけていきたいと思っています。

そして、子ども達の成長と共に、私も日々成長して行きたいと思います。

T. I 君高校野球春の大会

T. I 君は長野工業高校野球部副主将です。毎日練習で帰園は夜 10 時過ぎです。でも、朝は 5 時 20 分頃には起きて、朝食をとり、だれよりも早くお参りに出て正座して子どもたちを待っています。調理の先生は、毎朝早く食事する彼の礼儀正しさとマナーに、こんな素晴らしい子を本気に

(平成 28 年 5 月 10 日発行 月刊「円福」478 号付録 昭和 52 年 5 月 25 日第三種郵便物認可)

なって応援したいと言ってくれています。

春の大会には、サード（背番号 5）、打順は 5 番でフル出場して勝利に貢献する活躍をしました。彼の醸し出す良い雰囲気、チームを引っ張っていました。7 日は地区大会準決勝です。

